



## 目次

1. 第 3 回田んぼ 10 年プロジェクト全国集会報告..... 1~3
2. 水田部会からのお知らせ/これからの活動について/新規参加者一覧 他 ..... 4

田んぼだより第 10 号は、東京秋葉原で 8 月 20 日に開催された第 3 回田んぼ 10 年プロジェクト全国集会の様子を簡単に報告します。当日発表資料等、詳しくは HP をご覧ください。この全国集会は、国際的な視点から、FAO の持続可能な農業プログラムの主席オフィサーであるマティアス・ハルワート氏に基調講演をお願いし、セクター別活動報告をいただき、田んぼ 10 年プロジェクトをさらに進めるための議論を深めました。なお、時間配分の不手際により、パネルディスカッションを省略せざるを得ませんでしたこと、深くお詫びいたします。

\* \* \* \* \*



THE GLOBAL GOALS  
For Sustainable Development

### 第 3 回田んぼ 10 年プロジェクト全国集会報告

ラムネット J 安藤よしの

#### 1. 基調報告 ① 呉地正行 (ラムネット J 共同代表)

##### 『「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト」とその進捗状況』

##### これまでに行ってきた主な活動

各地での啓発・普及と参加者増加をめざす地域交流会を 7 回、全国大会を 2 回開催、にじゅうまるプロジェクトの全国大会などにも参加し、活動報告や、参加呼びかけを実施してきた。ラムネット J が農水省、環境省、国交省に呼びかけ、田んぼの生物多様性向上について議論をする、水田決議円卓会議準備会は、2009 年以降これまでに 59 回開催された。国際的な場でも積極的に発信を行い、CBD COP12 (韓国, 2014) での英語版行動計画のリリース、ラムサール COP12 (ウルグアイ 2015) 及び CBD COP13 (メキシコ 2016) での水田サイドイベントを日本

##### 2020 年そして 2020 年以降に向けて

2020 年は、田んぼ 10 年プロジェクトにとってのゴールの年となる。2020 年に向けて、愛知目標と対応した水田目標の達成程度を検証しながら登録活動数 500 件をめざして活動する。また、地域交流会の開催を継続、田んぼの生

政府、FAO との共催や協力を得て実施した。また JICA 地球環境部と協働し、ウガ

ンダ (アフリカ) での水田の生物多様性向上についての会議とシンポジウム、及びコスタリカ (中米) での湿地保全地域セミナーにも参画・講演してきている。啓発普及活動としては、メーリングリストやホームページ、田んぼだより、活動事例集の発行など、活動内容の発信を行った。

物多様性向上を主流化し、愛知目標 (水田目標) を軸とした「国連生物多様性の 10 年」のリーディングプロジェクトとなることをめざす。



#### 2. 基調報告② マティアス・ハルワート 氏 (国連食糧農業機関 (FAO) 持続可能な農業プログラム 主席オフィサー)

『持続可能な食料および農業と国連持続可能な開発目標 (SDGs) のための FAO 共通ビジョン—水田の生物多様性の例、そして人々・暮らし・自然に対するその重要性』 通訳: 池田愛美

##### 田んぼの生物多様性と SDGs

米そのものの種の多様性、田んぼの生きものの多様性、田んぼに生息する魚類の種類など、非常に多くの多様性があり、特にアジアの伝統的な農業において顕著だが、農薬の使用により損なわれてきている。田んぼに関係する主な持続可能な開発目標としては 6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する、13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる、



14 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する、15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する、などが考えられる。

また、関係が見えてくるように、目標の下に設けられている230項目の指標（indicator）まで加えて読み解き、公表している。

（例 2-1-1 低栄養の人がどれくらいいるか）

（例 2-4-1 持続可能に営まれている農地の比率）などである  
まとめ

・良好に管理された田んぼは、生物多様性豊かな統合的な農業システムである・農家の生態学的知識の向上が、回復力の向上、より栄養に富んだ作物、より持続可能なシステムへと導く・農家の人々の参加型フィールドスクール方式のアプローチは成功率が高いなど。

持続可能な食料および農業と国連持続可能な開発目標（SDGs）のためのFAO共通ビジョン  
FAOは加盟国とともに、持続可能な食料と農業の発展へと導く5原則を定めている。（訳参照：鹿児島大学 Sustainable Agriculture）

1. 資源の利用効率の改善
2. 天然資源を節約・保護・向上させるための直接的活動
3. 農村の生活と社会福祉の保護・改善
4. 地域社会及び生態系、とりわけ気候変動と市場の不安定性の回復力の強化
5. 責任ある効果的なガバナンスのメカニズムの必要性

・・・各セクターからの報告・・・

1. 農業者：稲葉光國 氏（民間稲作研究所）

『生物多様性を育む循環型有機農業の進展』

- ①長期残留殺虫剤の登場で「沈黙の春」が再来
- ②生物多様性を活用した雑草防除法の現状と課題
- ③生物の多様性を育む病害虫の防除技術の進展
- ④循環型の有機輪作農業（麦、ナタネ、稲、大豆）で生物多様性の向上と地球温暖化防止をめざす取り組み



2. 市民団体：岩淵成紀 氏（NPO 田んぼ代表）

『持続的な発展目標 SDG's と水田農業 田んぼの生物多様性がもたらすもの～田んぼの生きもの認証制度の可能性を探る～』

田んぼの生物文化多様性指標の提案

- ①農薬②土づくり③風致（ランドスケープ）の3つの指標から分類。

評価のための4つの簡単な調査方法

- ・カエル類 ・魚類 ・アシナガガモ類、トンボ類、バッタ類
- ・イトミミズ類、貝類、甲殻類で分類

調査結果を点数で評価し、改善点などを確認。



3. 生活協同組合：小林新治 氏

（コープデリ生活協同組合連合会副理事長）

『生産者と消費者のフードチェーンで繋がる 田んぼとお米と環境と』

- ・佐渡トキ米お米プロジェクト
- ・お米育ち豚プロジェクト
- ・田んぼの力でお米づくり
- ・田んぼに関わる たんぼを楽しむ 田んぼで育つ



佐渡トキ応援 お米プロジェクト





#### 4. 地方自治体：鮫田 晋 氏（いすみ市農林課）

『いすみ市の自然と共生する里づくり～生物多様性の主流化による里山地域の活性化と地域継承』

夷隅川流域でつながる里山・里海地帯

環境と経済が両立する有機稲作と協働のまちづくり

有機稲作モデル事業（2014-2016）の成果

いすみ生物多様性戦略と有機稲作

学校給食における有機米の使用

地域資源循環の促進 他



農水省 中川一郎 氏



國學院大学 古沢広祐 氏



IUCN 日本委員会 渡邊綱男 氏



農水省 高濱美樹 氏



😊 展示参加団体：JA 全農・NPO 田んぼ・かわごえ里山イニシアチブ・コープデリ連合会（試食/試飲も）のみなさんに心より感謝いたします。

# 水田部会からのお知らせ

## ■ 田んぼ 10 年地域交流会 in 河北潟開催予定

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

開催日：2017年11月25日（土）河北潟田んぼ視察 26日（日）田んぼ10年地域交流会

会場：津幡地域交流センター（石川県・津幡町）

申し込み締め切り：11月15日（水）同封のチラシをご覧ください。

69

## ■ にじゅうまる COP3 開催予定

開催日：2018年2月17日（土）全体会合とフォーラム・18日（日）分科会

会場：國學院大学（東京都・渋谷区）

詳細は次号で案内予定です。田んぼ10年プロジェクト・湿地のグリーンウェイブは18日に分科会を開催する予定です。

## ■ 田んぼ 10 年プロジェクト 新規登録者のご紹介（2017年4月～2017年9月）

188	神奈川県	個	吉田淳久
189	神奈川県	個	山本誠一
190	神奈川県	個	小島通裕
191	神奈川県	個	角石裕
192	愛知県	個	原野好正
193	神奈川県	個	中村一平
194	神奈川県	個	小高勝子
195	神奈川県	個	所谷茜
196	神奈川県	団	株式会社神静民報社
197	神奈川県	個	井上瞳
198	石川県	個	高橋久
199	福井県	個	上野山雅子
200	神奈川県	個	渋谷僚

201	神奈川県	個	安西穂高
202	神奈川県	個	近藤起央
203	神奈川県	個	山田純
204	神奈川県	個	葉山久世
205	神奈川県	個	高橋由季
206	神奈川県	個	石井智子
207	神奈川県	個	高橋博
208	神奈川県	個	鳥海義文
209	東京都	個	大石 宗弘
210	東京都	個	鬼塚 和子
211	大分県	個	吉田 英彦
212	千葉県	個	原 寛俊
213	埼玉県	個	藍澤 司

小田原市での地域交流会と秋葉原での全国集会にて、多くの皆さまに参加登録いただきました。ありがとうございました。

### 情報をお寄せください！

各地での取り組み参加の呼びかけや活動報告、ご意見などを事務局までお知らせください。田んぼ ML に直接投稿くださるのも歓迎いたします。

### 田んぼ 10 年プロジェクト近況報告：

呉地正行・船橋怜二の2名は、10月2日から1週間、フィリピンの田んぼで調査活動・交流を行っています。結果は次号で報告予定です。



田んぼ10年プロジェクトは、企業からの支援をいただいています。



### 連絡先/事務局

ラムサール・ネットワーク日本

info@ramnet-j.org

FAX:03-3834-6566



田んぼ10年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、国連生物多様性の10年日本委員会の連携推進事業に認定されています。



このニュースターは、平成29年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。

